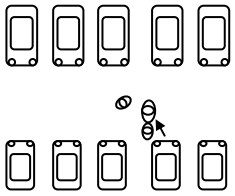
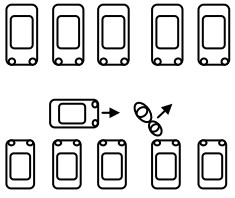
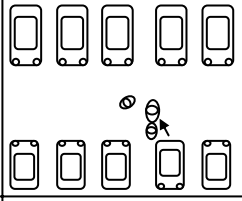
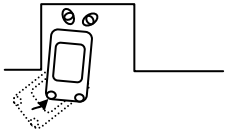
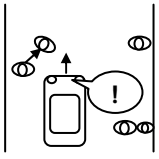
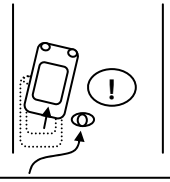
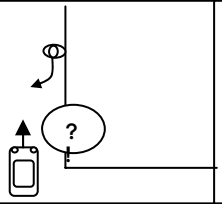
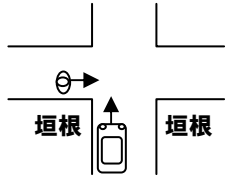
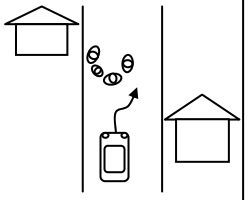
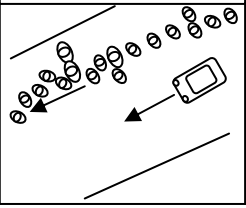
○対策が必要となる場面について

資料5

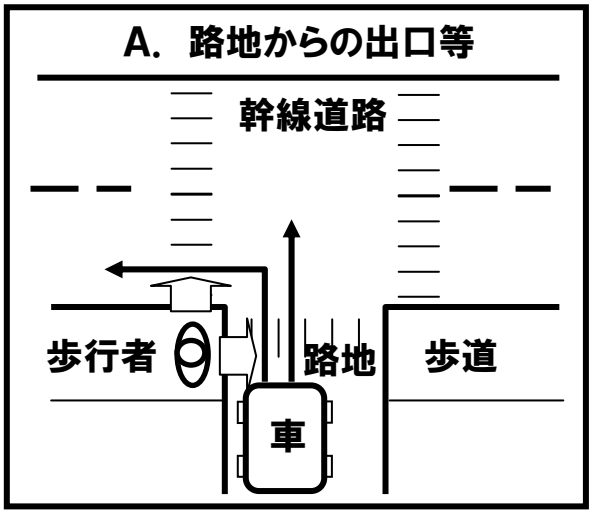
1．ハイブリッド車等の接近に歩行者（視覚障害者を含む）が認知していない場合

No.	認知性が問題となるシーン	
①		駐車場の枠内に止めている車を発進したいのに、エンジン音が出ないため車の前で立ち話をしている人が車の発進に気付かない
②		駐車場の歩行者が気づかない
③		①と同様で，後退発進したいケース
④		自宅駐車場で遊んでいる子供が気づかない
⑤		狭い商店街 歩行者が反対側に渡ろうと中央に踏み出したら,すぐ背後に車両がいてヒヤリ

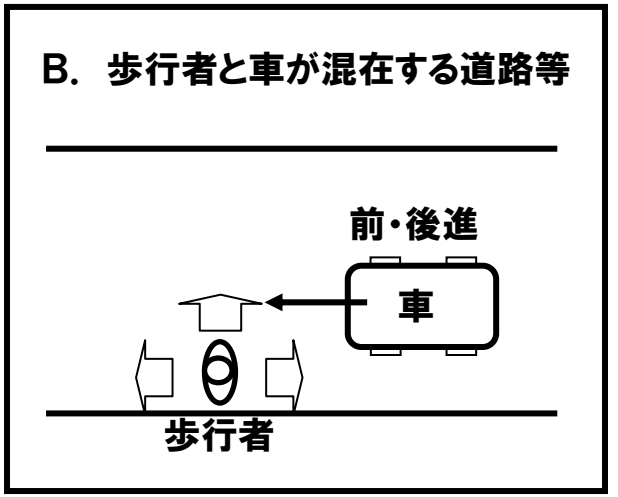
No.	認知性が問題となるシーン	
⑥		駐車（停車）から，ウィンカーを出して発進しようとしたら歩行者が道路側から追い越そうとしてきてヒヤリ
⑦		前方から前を良く見ていない歩行者が対向してくるケース
⑧		見通しの悪い交差点や、幹線道路と接する路地で、視覚障害者が道路を横断するケースや思わぬ飛び出しが想定されるケース
⑨		話に夢中になっている人たちの横を通り過ぎるケース
⑩		通学路で、小学生が登下校して何10mも連なっているケース。いつ飛び出してくるか判断できないため鳴らしっぱなしにする必要性がある

2. 対策が必要となる場面の整理

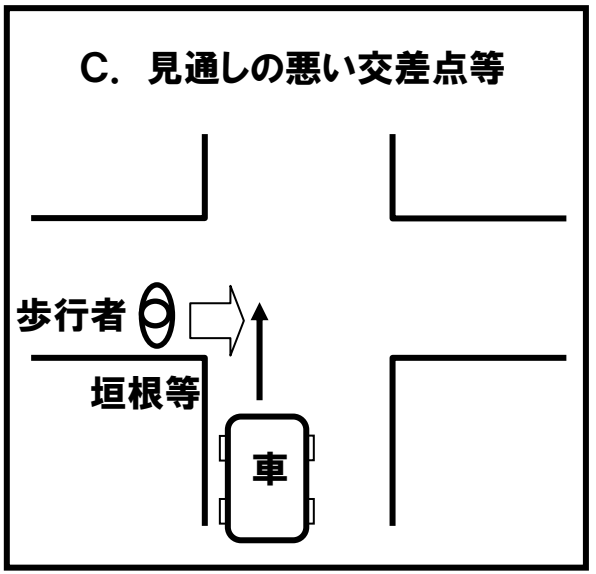
ハイブリッド車等の接近に歩行者（視覚障害者を含む）が認知していない場合、認知性が問題となるシーンを整理すると、概ね以下のように分類される。



シーン①、③、⑥



シーン②、④、⑤、⑦、⑨、⑩



シーン⑧

（１） A、B、Cともに、発進および低速走行での静音性が問題になる場面。

車が動こうとしている時、又は動いている時が問題であり、駐・停車中は対策が不要と考えられる。

（２） Cでは、運転者が歩行者に気付かない可能性があるので常時発音が必要。

運転者操作が必要なソフトホーン等では、対応が難しい。